

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。
 ※帰国後1カ月以内に提出(送信)してください。
 ※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	ディーキン大学	氏名	
国名	オーストラリア	学籍番号	
留学期間	2022年 8月 ~ 2023年 6月	記入年月日	2023年 7月 26日

1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野: Arts and Education 国際関係学			
科目名	A History Of Australian Football 1858-2020	科目名	Australia In The Age Of Total War
授業内容	オーストラリアの国民的スポーツであるフットボールの歴史を通して、このスポーツがどのように国内で人気となったのかを研究する。また、女性や先住民族への関わり方の変化を学ぶ。	授業内容	第一次世界大戦と第二次世界大戦において、オーストラリアが世界の中でどのような役割を果たしていたのかを学ぶ。
授業形式	対面	授業形式	対面
単位数	1	単位数	1
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.	AST250	難易度 Course No.	AIH238
宿題の量	中間課題で動画3分提出、期末課題1600文字	宿題の量	毎週末小課題120字、期末課題2000字
コメント	クラスの人数は私を含め十人ほどで教授との距離も近く、とても良い雰囲気でした。教授と学生とで討論する時間が多く、活発な意見交流が可能なためとても充実した時間を過ごすことができました。現地学生と同等に討論に参加することは初めは困難でしたが、徐々に慣れて積極的に発言していけるようになりました。フットボールの歴史を通し、オーストラリアの多様性に対する考え方の変化を知れました。	コメント	日本で学んだ世界大戦を、オーストラリアという異国の視点から捉えることができとても面白かったです。この授業を通し、世界から日本がどのように見えているのかを知ることができました。また、オーストラリアが世界大戦をどのように捉えているのかを知ることができ、日本の捉え方との違いも知ることも面白かったです。現地学生の基礎知識を取り入れるため、現地の小中学生用の教科書を図書館で読んでいました。
科目名	Australia And The Changing Asia-Pacific	科目名	
授業内容	現代のオーストラリアの世界との関わり方を、経済・政治など様々な角度から分析し、今後オーストラリアがどのように振る舞っていくべきなのかを考える。	授業内容	
授業形式	対面	授業形式	
単位数	1	単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.	AIR202	難易度 Course No.	
宿題の量	中間課題2000字、期末課題2000字	宿題の量	
コメント	現代の世界のあり方を、オーストラリアの視点から広く学ぶことができました。特にQUADに関する講義では、オーストラリアと日本との関係を深く知ることができました。	コメント	

6	医療保険についてお書きください
	渡航前に加入した保険
	留学先大学にあった医療保険制度
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)
	乾燥による肌荒れを治すために2回皮膚科へ行きました。
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)
	(現地通貨)
	渡航旅費 63,190 円
	帰国旅費 65,040 円
	引越し(往復で) 円
	保険 86,120 円
	語学研修費 796,727 円
	留学先学費 352,295 円
	本学学費 200,000 円
	教材費 円
	住居費(食費含む) 1,294,854 円
	食費 円
	その他() 円
	() 円
	() 円
	合計 2,858,226 円
	換算率 (1AD = 94 円)
	受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください
8	留学前の準備について教えてください
	日本から持参すべきもの
	100均の炊飯器、ふりかけ、インスタント味噌汁、スキンケア用品
	留学前にしておけばよかったこと
	現地の日本人の割合を調べておくこと。意外と日本人が多く、注意しないと日本人とばかり関わってしまう。

9	<p>適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください</p> <p>学習面に関しては、オーストラリアの歴史の授業を取った際、現地の学生が小中学校で学ぶ基礎知識が抜けていて、初め討論についていけませんでしたが、これを解決するために、図書館で現地の子供が小中学校で学ぶ歴史の教科書を読み、基礎知識を補いました。英語のスピードが速く、講義を完全に理解できなかった経験もありました。討論についていけるほどの英語力を得るために、大学のディスカッションサークルに所属しました。徐々に自信を持って自分の意見を言えるようになりました。生活面に関しては、英語力と文化の差から現地学生との会話を盛り上げることに苦労しました。さまざまなサークルに入り、積極的に学生と関わっていくことで徐々に現地学生との会話を盛り上げる方法を掴むことができました。また、日本に興味のある学生が多かったため、日本について正しく紹介するために、日本の観光地について調べ直したり、日本のアニメを英語で見直したりしました。ホストファミリーと円滑に生活するのに苦労したこともありましたが、共用のものを丁寧に扱ったり、挨拶・会話を心がけたりと気を使って生活する必要がありました。</p>
10	<p>留学の成果(学習面・精神面)を教えてください</p> <p>学習面に関しては、現地の講義を完全に理解するレベルまでリスニング能力を高めることができました。自分でオーストラリア滞在中に英語の勉強を行なったこともありますが、最も大切だと感じたのは、積極的に現地学生と交流することです。講義で近くの学生に声をかけ、授業の疑問点を聞くなど、積極性をもって関わることに励みました。国際関係学を専攻したので事前知識があり、講義の内容を理解しやすかったです。精神面に関しては、簡単に物事を諦めなくなったと思います。私は、留学初期、友人ができなかったり、ホストファミリーとうまく関われなかったりとても苦労し、日本に帰国したいと何度も考えたことがありました。しかし、なぜ友人ができないのか、なぜホストファミリーとうまく関われないのか原因を探り一つ一つ解決して行ったことで現地の方と良好な関係を築くことができました。心が折れそうになることがあっても、冷静に自分を見つめ直し対処していく力が身についたと考えています。異国にきたからこそ、これまでの自分が通用せず、自分を見直すきっかけを多く作ることができました。</p>
11	<p>今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください</p> <p>多様な人々が集まるオーストラリアへの留学を通し、将来の日本の多様化にとっても関心を抱くようになりました。オーストラリアの大学にはさまざまな国からやってきた留学生が多くいました。そして、人種、国籍関係なく学生同士が活発に交流しあい、互いを尊重しあっている姿が多く見られました。将来的に日本は少子高齢化が進み、市場を海外へ広げて行ったり、外国からの労働力を受け入れて行ったりとグローバル化が求められていくと考えています。そこでこのような多様性を受け入れていく姿勢を日本も取り入れていかなければならないと強く感じました。今後は、大学での専攻である国際関係学を通し、日本が世界の中でどのような立場でどう振る舞っていかなければならないのかを研究していきます。また、就職先に関しては、海外と日本をつなぐ、グローバルな職場で働きたいです。特に、メーカーなどに所属し、日本のものを海外へ売り、海外に市場を広げていくような仕事に興味があります。</p>
12	<p>留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします</p> <p>留学に行き行って本当に良かったと感じています。何よりも嬉しかったことは異国の地に一生大切にしたいと思う友人ができたことです。困難にぶつかることも多くあり、辛い思いをすることも何度もありましたが、現地の方がたくさん支えてくれました。人々の温かさに触れることができました。多国籍の方々和交流する中で、人と人が心で通じ合うことに国境は関係ないのだと深く実感しました。また、学習に関しても、日常生活に関しても、異国の地で多くの人に助けられながらも、自分の力で困難を乗り越えることができたこの経験は、大きな自信となりました。今後何があっても私なら大丈夫だろうという確信を持つことができました。また、日本を出ることで、これまでの常識を客観視することができます。日本の良いところ悪いところが見えてきて、自分のあり方・振る舞い方を振り返ることができます。これにより、思い描く将来像も大きく変わりました。広い視野を持ち、将来のあり方を考えることのできる留学を強くお勧めします。頑張ってください。</p>
13	<p>その他、ご自由に意見を書き込んでください</p>

※本報告書は国際センターホームページに掲載します。下記のいずれかに✓をしてください。

国際センターホームページへの報告書の掲載を

(許可する(写真含む) 写真掲載のみ不可 許可しない)

※Web掲載を許可する場合は、報告書は手書きではなくパソコン入力してください。
ホームページに掲載する際は、個人情報(学籍番号および氏名)は非公開とします。



チアリーディングクラブで試合に参加した際の写真



ジャパニーズクラブのメンバー



ホームステイ先の家族と自分の家族